

## 農業振興地域整備計画の見直しを実施

●問い合わせ 農林課 (☎ 656 - 6538)

「農業振興地域整備計画（農振計画）」は農業振興のための総合的な計画を市町村が定めるものです。市では令和9年度に計画の見直しを行います。

●農用地区域内の農地を農地以外に使用する際は手続きを

農業振興地域内で農用地として利用するための土地の区域を「農用地区域」といいます。農用地区域は、優良な農地の保護のため、水田の整備や売買、贈与などの際の税制上の優遇が適用されますが、農業以外の目的での利用は制限されています。農用地区域内の農地を農地以外に使用するとき、農地転用の許可申請をする前に、農用地区域から除外する手続きが必要です。



●農用地区域における土地利用制限

農振計画の見直し期間中は、農用地区域からの除外手続きと用途変更などの手続きができません。このため、農用地を住宅建築などの別目的で利用する予定がある人は、本年度中に変更手続きを行ってください。

※見直し期間終了後には通常通り変更手続きを受け付けます。

●意向調査に協力を

農振計画には、実際に農業に携わっている皆さんの経営上の問題や規模の拡大などに対する意向を反映します。令和9年度中に意向調査を実施します。対象は、農家の皆さんと農業振興地域農用地区域内に農地を所有している人です。

対象者へは市から調査票を郵送しますので、協力をお願いします。

## 特定外来生物の駆除について

●問い合わせ 環境課 (☎ 656 - 6510)

特定外来生物は市内でも広く生育が確認されています。所有する土地などで見つけた場合は、早期駆除をお願いします。

●特定外来生物とは

元々日本での生育はなく、人間活動で持ち込まれた海外起源の外来種のうち、農林水産業や生態系などに被害を及ぼすとして「外来生物法」で指定されているものです。植えることや生きたまま運搬することなどは原則禁止されており、違反した場合は拘禁や罰金が科せられます。

市内では黄色の花が特徴の「オオハンゴンソウ」や長いツルと実のトゲが特徴の「アレチウリ」などが確認されています。

●どんな被害が出るのか  
特定外来生物は繁殖力が強く、放置すると在来の植物や農作物を駆逐し、生息範囲を広げていきます。



▶オオハンゴンソウ



▶アレチウリ

●駆除するには

成長が進む前や、種を付ける9月より前に根から全体を抜き取ることが効果的です。地中に残った根や落下した種から再び発芽する可能性があるため、継続して駆除を行います。

抜き取った特定外来生物は生きたまま運搬することができません。拡散を防ぐため、ごみ袋などに入れて枯死させてから可燃ごみとして処分してください。

除草剤の使用は一定の効果がありますが、周囲の植物も枯らしてしまう恐れがあります。使用する際は周辺環境への影響に十分注意してください。

# 「地域医療の在り方に関する報告書」を作成

●問い合わせ 企画政策課 (☎ 656 - 6561)

市では、市民の地域医療に対する考えや市内医療機関などの現状、国や県の医療政策の方向性などを踏まえ、今後の地域医療体制の在り方について検討した結果を報告書として取りまとめました。

## ●報告書の内容

本市は盛岡保健医療圏に所在し、県内でも比較的恵まれた環境にあります。しかし、圏域における医療資源の偏在や、市内の周産期医療、在宅医療・みとり体制への不安といった課題があります。

報告書では、課題の解決に向け、短・中期ビジョン、長期ビジョンを設定し「生活を支える医療」を提供できる体制の維持・強化を目指す方向性を示しました。

## ●報告書はこちら

「滝沢市地域医療の在り方に関する報告書」は、市役所3階企画政策課の他、市HPから



## ▼市を取り巻く現状の分析（一例）

### 市の現状

- 内科を中心に幅広い診療が可能となっているが、産婦人科がなく、市内で分娩はできない状況。
- 市内の2次救急体制として「病院群輪番制参加施設※」がない状況。
- 今後は人口の減少と高齢化率の高まりが見込まれ、特に介護需要が高い85歳以上の人口は40年間（平成17年～令和27年）で約6倍になると予測。

※地域の2次救急（中等症）医療を確保するため、複数の病院が当番制で救急患者の受け入れを行う医療機関。

## ▼アンケート調査結果

市民	市内医療機関	市内ケアマネジャー
<ul style="list-style-type: none"> <li>●日頃通院する医療機関は市外にあるという回答が6割を超えた。</li> <li>●35～49歳の世代は不満を感じている人が多い。周産期医療（産婦人科と小児科）の充実を求めている傾向がある。</li> <li>●高齢世代は三大疾病（がん・脳卒中・心筋梗塞）などの受診も可能な基幹病院を中心とした希望が強い他、医療機関への交通手段の確保や高齢者支援体制構築への要望も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●患者数減少やスタッフの高齢化・不足などを経営課題と捉えている医療機関が多い。</li> <li>●初期救急体制が充実していないと考えている医療機関が多い。</li> <li>●不足している診療科目として、外科や産科を挙げる意見がある。</li> <li>●今後、在宅医療や訪問診療を進める上でも医療と介護の連携を進める必要があると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●在宅医療が必要な人の支援における困難事例として「家族と本人の希望の差」「市内で訪問診療をしている医療機関が少ない」などの意見がある。</li> <li>●ケアマネジャーの視点からは医療と介護の連携はおおむね取れていると感じている。</li> <li>●市が目指すべき地域医療体制として、訪問診療やオンライン診療の充実を求める意見が多くある。</li> </ul>

## ▼市地域医療ビジョン

